

(仮訳)  
サヘル地域における平和と安定に関する特別会合  
河野外務大臣ステートメント  
2019年8月28日 於:横浜

皆様,

この度は、本会合にアフリカ諸国、G7 及び国際機関代表者の皆様をお迎えでき大変嬉しく存じます。本特別会合ではアフリカ自身の取組及び国際協力の双方によりサヘル地域の平和と安定をどう確保していけるか議論したいと思います。

シェルギ・アフリカ連合委員会(AUC)委員に対し、本会合の共同議長を務めていただくことに心から御礼を申し上げます。日本と AUC は、AU 平和基金を通してサヘル地域そしてアフリカにおいて、ブルキナファソ北部で実施中の病院案件を始めとする様々なプロジェクトを共に実施してきました。

皆様,

サヘル地域が抱える課題は2要素から成り立ちます。1つ目はテロとの闘いであり、2つ目は地域開発であります。1点目に関して、G5 サヘル合同部隊や対テロ任務を持つその他国際部隊は、昨年の G5 サヘル合同部隊本部へのテロ攻撃など幾多もの困難に直面してきたに

もかわらず、積極的に活動しています。MINUSMA(国際連合マリ多面的統合安定化ミッション)もまた、隊員に対する頻繁な攻撃にもかかわらず、「マリ和平及び和解合意」の履行支援や文民の保護等を通じて、マリの安定化において重要な役割を果たしてきました。犠牲者の方々とその御遺族の皆様には心からの哀悼の念を申し上げますと共に、現場において不断の努力をなされている全ての皆様へ敬意を表します。

サヘル地域が直面する2点目の課題については、サヘル地域の開発を進めることによって、我々がテロリストを屈服させ、チャド湖地域を含め農村部にまで統治を拡大することができるという考えが広まっています。4月には G7 の外相が、そして数日前には G7 の首脳が、テロリストの資金源、マクロ経済レジリエンス、教育、保健といった経済的側面に強く焦点を当てた「サヘル・パートナーシップ行動計画」に合意しました。日本は G7 議長国としてのフランスの指導力を心から評価いたします。フランスのディナールで私自身が参加した議論やアフリカ及びヨーロッパの同志たちとの意見交換は、日本のサヘルへの積極的関与を明確に述べることを後押ししました。その第一歩として、日本は本年6月からサヘル同盟にオブザーバーとして参加しました。

日本は、アフリカや国際的パートナーと緊密に協議し、次の4分野の援助をサヘルに提供することを決定しました。

第一に、制度構築こそが国造りの中心的要素であることを認識しており、国家及び地域レベルでの司法、行政、立法に携わる人材の育成に注力していきます。この目的達成のため、日本は、今後3年間でG5 サヘル諸国の1,000人に対して人材育成を実施します。

第二に、若者やその他の世代の人々に対し、職業訓練や教育機会を提供します。例を挙げると、ニジェール、マリ、ブルキナファソにおいて親、教師、そしてコミュニティの積極的な関与を通じて子どもの教育の質とアクセスの向上に一貫して貢献してきました。

第三に、「バマコ・アリウヌ・ブロンダン・バイエ平和維持学校 (EMPABB)」を通じて PKO への人材育成を強化し、マリ、チャド、ブルキナファソ及びモーリタニアに治安対策機材を提供することで政府、警察、空港の能力を向上させます。

第四に、人道と開発の連携の文脈で、難民、国内避難民、そのホストコミュニティを、医療分野も含め支援し続けます。3月には、G5サヘル諸国に、主に人道支援を中心に、2,300万ドルを支出しました。

最後になりますが、本会合が、すべての関係者にとって、サヘル地域の複雑な課題の解決のために、より相乗的かつ協調的なアプローチをとれるように、より良い方法を見出す機会となることを期待しております。

御静聴ありがとうございました。

(了)